

FIELDWORK

学外研修 | 総合社会学科

企業・自治体・NPO・ボランティア団体の活動や地域イベントに、学生が社会の一員として参加します。発想力を鍛え、社会に実在している課題・問題を解決に導いていく力を養います。

実社会での経験を活かして 地域経済の課題と解決策を探る



PICKUP:01

学びを実践に、総合力を即戦力に

地域経済の活性化:すべては現場から始まる。



PROFESSOR'S VOICE

地域経済の課題と 解決策について学びを深める

中原ゼミの学生は、地域経済を活性化するために、個別のテーマを設定して日々研究を進めています。その内容は、たとえば、農業の付加価値向上策、新しい体験型観光、地産地消による地域経済循環、補助金政策のあり方、地域課題の解決に活かす情報技術など、実にさまざま。研究を机上の空論としないためには、できる限り「現場」を知ることが大切です。それによって、学びの広さや深さが

大きく変化していきます。たとえば地元住民の方と一緒に汗を流すことでお互いに信頼関係が生まれ、より詳しいお話を伺うこともでき、学生一人一人が自身の研究を前進させることができます。



専門分野/
社会心理学・地域ブランド戦略
中原 洪二郎 教授

STUDENT'S VOICE

地域住民と向き合うことから、地域の課題を学ぶ

中原ゼミで、地域の方々から直接お話を伺い、一緒に作業をすることで、現場の課題を身をもって体験し、地域活性化につながる方策を学びました。たとえば、地元農家のご協力のもとレクチャーを受け、田植えから、精米して食べるまで、今はほとんど行われていない伝統的な稲作を経験したことは、とても有意義な体験でした。さらに、近隣のイベントにも参加し、市役所の職員の方や、

自然風景を専門とするカメラマンの方など、たくさんの人と交流する機会も。多くの人が地域の活性化に尽力していることを実感し、課題を体感しました。地域と関わる職業への関心が高まりました。



総合社会学科 3年
(岡山県立津山東高等学校出身)
石尾 昂大 さん



その他のフィールドワーク

PICKUP:02 | 社会体験実習



業務や活動を実践し、 社会について理解する

私たちが暮らしている社会は、さまざまな人々が関わり合って成立しています。その多くの人々の日常は、テキストから学ぶ授業だけでは知ることができません。2年生の必修科目「社会体験実習」は、教室内にとどまらず、学外の広い社会を経験する学び。地域の企業やNPO団体などの現場で活躍している人々と交流し、業務や活動を実践しながら多様な社会に対する理解を深めます。

- 地域の子どもたちを対象としたデザインワークショップの運営
- 知的障害のある人たちのスポーツ活動の推進
- 奈良のお土産や特産品の開発と活用
- 商店街の活性化活動への協力
- それぞれのゼミの特徴を活かした学外研修